

令和7年9月5日

令和8年度総合科学技術研究科（修士課程）
理学専攻一般入試に係る受験者の皆様
関係各位

静岡大学大学院
総合科学技術研究科理学専攻長
山 本 歩

令和8年度静岡大学大学院総合科学技術研究科（修士課程）理学専攻
一般入試における試験問題の誤りについて

令和7年8月28日（木）に実施されました標記試験におきまして、以下のとおり誤りがありました。受験者並びに関係者の皆様に、心より深くお詫び申し上げます。本事態を真摯に受け止めるとともに、今後このようなことが起らないよう、再発防止のための努力を重ねてまいります。

記

【I】生物科学コースの試験問題の誤り

1. 当該試験問題：生物科学コース専門科目 問題I「問6」

2. 当該試験問題の内容

問題I. 組換えタンパク質発現実験に関する次の文章を読み、問1～8に答えなさい。（配点40%）

《略》

③形質転換した大腸菌を37℃で培養し、ある程度増殖させた後IPTG（イソプロピル-β-D-チオガラクトピラノシド）を添加した。その後、続けて(c)20℃で一晩培養した。

④大腸菌からタンパク質を抽出し、ニッケルカラムを用いてHisタグ付きタンパク質を精製した。精製タンパク質をSDS-PAGEで解析した結果、予想通りの分子量に対応するバンドが確認された。

《略》

問6. 下線部(c)について、大腸菌でタンパク質を発現後、37℃ではなく20℃で培養した理由を説明しなさい。

◇上記赤字部分について、正しくは以下のとおり。

〔誤〕発現後

〔正〕発現誘導後

3. 当該試験問題への対応

解答には直接影響しない箇所であり、得点調整は行わないこととしました。

＜本件に関する連絡先＞
静岡大学理学部学務係
電話 054-238-4861